韓国ドラマは、私の妙薬

　沖縄 伊禮朋子

私は生まれも育ちも沖縄で、県外で働いた事は一度もない。そんな私は沖縄出身の夫と21才の時に結婚して4人の子供を授かった。

私の実家は経活的に厳しく生活も苦しくて幼な頃、心に傷を受ける出来事も多くあったので、私をずっと守ってくれる男性と早く結雄して家を出たかったからだ。

40年前の沖縄は賃金が現在よりもずっと安くて夫の収入だけでは生活が厳しくて私もパートで働いたが、子供が産まれると子供達の病気で入退院のくり返しで、長女は重い病気を持って産まれたために10ヶ月で亡くなった。その後長男が中学生の頃から荒れ始め、高校も中退して家庭内暴力で家庭は崩壊寸前だった。家庭を守りきれない夫に対して言いたい事が山ほどあるのに、心を閉ざした私は何も自分の思いを言えなかった。幼い頃から私は自分の考え、心に思っていることをそのまま素直に言葉に出来ない表現できない人になってしまった。特に喧嘩になりそうな意見がぶっかる時、大声を出して争う様な時、私はその場から離れる。自分の意思を主張したりはしない。それは家庭でも職場でも友人関係においても人と争う事をしない。平和主義者と言えば聞こえは良いがけしてそうではない。本音は自分を表に出したい。一言いたい事が言えずに悶々としている。言えずにその場から逃げてしまう自分が嫌いだった。

そんな私が数年前にパートでお世話になったご夫婦と友人夫婦の家族関係をみて勉強になったし救われた。どちらも在日コリアンのご主人と沖縄出身の奥さんで一方は韓国食材店を営み、一方は韓国料理を経営している。

どちらのご主人も私の夫よりは激しい性格で言葉も荒い、それに対して奥さんもけして負けてはいない。大声で怒鳴り合い激しく言い争う。どちらも自分の主張を曲げないし、引かない。時には取っ組み合になった事もあると聞いた。激しく怒ったり、泣いたりしても又、元のさやに収まるこの二組の夫婦の姿は今までに会った事のない夫婦の姿で、妻の姿だった。こんなに自分をストレートに出して良いのか。私が変わる切っ掛けとなった。

そして、ここ三年くらい前から韓国ドラマを観るようになって又救われた。ドラマのヒロインが自分の良い所も悪い所もまぬけな所も全てオープンにして生きている姿に心を動かされた。自分を素直に出して良いんだと。ドラマでは、ヒロインを愛する男性が愛情表現が豊かでいつもヒロインの側で守り、本当に優しくて大事にする。全然愛情表現をしてくれない夫に対して悲しい気持ちを持っていたが、ドラマなのになんだか夫から愛されているかのよのに心が嬉しく暖くなった。韓国人の情の深さや愛の大きさに触れて、これまでの私の心の傷や壁が取り払われた。

まさに、これが平和統一で繋ぐ近道になり、心の壁が崩れる時、皆一つになれると確信する。

今や韓国ドラマは私の心の妙薬だといえる。私を明るくしてくれた韓国人の友人夫婦にも本当に感謝している。100%では無いにしても言いたい事が素直に言える今の私がいる。